

## メッセージアウトライン テサロニケ人への手紙 第二3:1~5 「真実な方である主」

[1-2]「終わりに、兄弟たちよ。私たちのために祈ってください。主のみことばが、あなたがたのところと同じように早く広まり、またあがめられますように。また、私たちが、ひねくれた悪人どもの手から救い出されますように。すべての人が信仰を持っているのではないからです」

パウロは「終わりに」ということばでこの手紙の結論部分に入ったことを示しながら、「私たちのために祈ってください」と祈りの援軍を求める。Ⅰテサロニケ5:25,ローマ15:30等でも同様の祈りの求めがなされている。どんな信仰者でも他の人から祈って支えてもらう必要がないほど強い人はいない。逆に主のみわざに励めば励むほど、他の信仰者の祈りの助けを必要とする。→モーセの例（出エジプト17:8~16）

福音を宣べ伝えていく時にクリスチャンはしばしば迫害や妨害を受けることがある。パウロたちは今、コリントで福音を宣べ伝えているが、彼らはユダヤ人たちによって強く反抗されている。→使徒18:6,12 このような人々は福音を聞いて、その上で反抗するのである。

「ひねくれた（アポス）」とはあるべき場所がないという意味であり、そこから、「ひねくれた悪人」とは、神にも人間社会にも反した行動をとる者のことを意味するようになった。このような者たちは、神に対しても人に対してもあるべき場所がない、心がひねくれてしまった悪人なのである。神はすべての人が悔い改めて、救われることを望んでおられる（Ⅱペテロ3:9）が、彼らは福音を受け入れようとはしない。すべての人が信仰を持っているのではない。また、持とうとしないということは残念ながら事実である。それゆえ、パウロはテサロニケ教会の人々に祈りの援軍を求めるのである。→①主のみことばがテサロニケの時と同様に早く広まり、またあがめられるように。②ひねくれた悪人どもの手から救い出されるように。

私たちも福音のために苦闘している人々、様々な困難の中にある人々のために、祈って支える者とならなければならない。

[3]「しかし、主は真実な方ですから、あなたがたを強くし、悪い者から守ってくださいます」

今までパウロは自分たちのために祈りを求めていたのに、ここでは再びテサロニケ人たちに思いを向け、主は真実な方なのであなたがたを強め、悪い者から守ってくださいとの確信を表明する。テサロニケ教会の人々もその信仰のゆえに苦しみを受けており、外からは迫害、内からは間違っただけを言い出す者が出ていた。しかし、主は真実な方であり、主のみこころによって教会が立てられたのであるから、必ずどのような苦難にも耐えられるように彼らを強め守ってくださいとパウロは確信している。この3節のことばを私たちも堅く信じるのが大切である。

[4]「私たちが命じることを、あなたがたが現に実行しており、これからも実行し

てくれることを私たちは主にあって確信しています」

これは彼自身の勝手な思い込みではなく、「主にあって」の確信。つまり、真実なお方である主が必ず彼らをそのように導いてくださるといふ信仰の確信である。また、それだけパウロがテサロニケ教会の人々を信頼しているということのしるしでもある。

[5]「どうか、主があなたがたの心を導いて、神の愛とキリストの忍耐とを持たせてくださいますように」

再びパウロは彼らのために祈る。

「主があなたがたの心を導いて」…心は人間の知、情、意を含む全人格を代表するものであり、人が変えられ、神のみこころにかなう者となるためには、まずこの心が神に導かれなければならない。そして「神の愛とキリストの忍耐とを持たせてくださいますように」と続く。神の愛はイエス・キリストの十字架においてははっきりと示されている。→ヨハネ3:16 キリストの忍耐は、キリストが私たち罪人を死に至るまで耐え忍ばれ、ついに救いの道を開かれたというところに、はっきりと示されている。→ヘブル12:2-3

私たちはこの神の愛とキリストの忍耐を持たせていただいてこそ、人を愛し、また迫害や苦難を乗り越えていくことができる。それゆえパウロはこのことを教会のために熱心に祈り求めるのである。

私たちも真実なお方である主に心からより頼んで、強くされ、守っていただき、神の愛とキリストの忍耐を持って、どのような苦しみや困難をも乗り越え、人を愛し、神を愛し、忍耐しつつ神のみこころにかなった教会を形成していく者になりたい。